



地域産業の発展と地域金融機関の取組み

平成22年4月27日

福岡財務支局

目 次

1. 地場産業

- ①「対馬産養殖クロマグロ」の地産地消の推進1
- ②「有田焼」ブランドの新たな取り組み2
- ③ 伝統的な基幹産業である大川家具業界の取り組み3

2. アジアへの展開企業

- 無添加石けん系製品の開発及びアジアへの販路拡大4

3. 医療・介護・健康関連産業

- ① 産学官連携によるバイオベンチャー企業の育成5
- ② 低コスト健康食品とその加工品の開発6

4. 環境関連産業

- スーパーマーケット排出の生ごみのリサイクル事業7

5. 地場ベンチャーファンドの活用

- ① 地場ベンチャーファンドによる新事業展開支援8
- ② 地場ベンチャーファンドによる新事業展開支援(事例)9

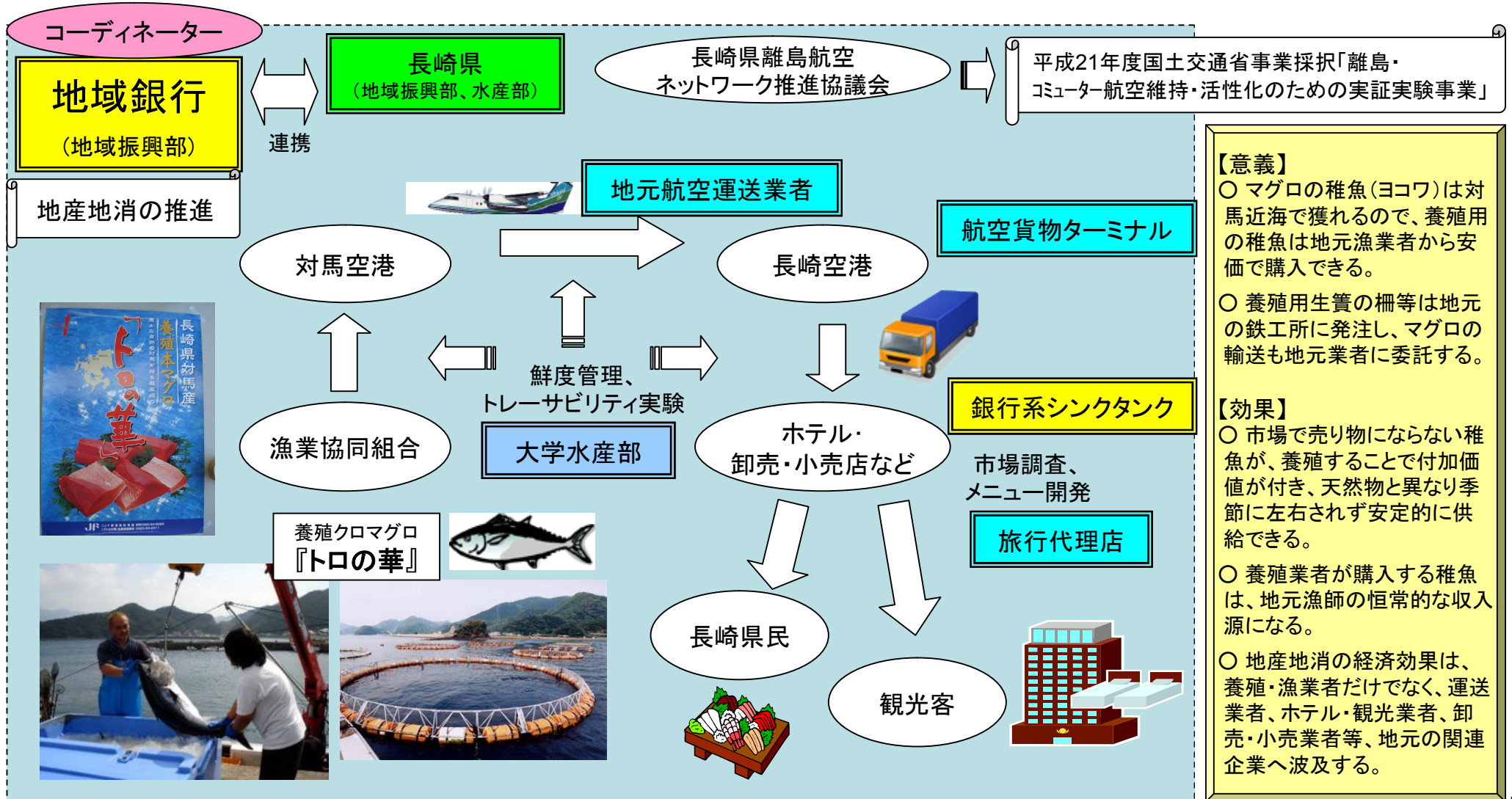
6. 取り組みの類型化と今後の課題

...10

地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 1.地場産業 ① >

「対馬産養殖クロマグロ」の地産地消の推進

「対馬産養殖クロマグロ」に関し、地域金融機関が産学官連携のネットワークをコーディネートし、長崎県内住民、観光客への販路・消費拡大(地産地消)を図り、地域経済の活性化に取り組むもの



地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 1.地場産業 ② >

「有田焼」ブランドの新たな取組み

伝統的な地場産業である有田焼の関連企業等の新たな取組みに対し、地域金融機関が①地域を挙げた協働作業に対する支援や②技術力を持つ零細企業への支援に取り組むもの

地域銀行

①

信用金庫

②

有田焼卸団地協同組合

有田焼販売業者(21社)

ダンボール業者(2社)

有田焼窯元(不定数)

有田焼販売業者

有田焼窯元(14社)

匠の蔵シリーズ

『至高の焼酎グラス』
『至福の徳利 & 盃』
『プレミアムビアグラス』
『極上のカレー皿』
『贅沢なシチューボール』
・毎年1回共通テーマで提供



『究極のラーメン鉢』

- ・口径180mmで冷め難く収納性が良い。
- ・口部は薄く腰はやや厚め、口当たりの良さと丈夫さを兼備。
- ・全高80mm、軽量で楽に持てる。
- ・高台が厚く、熱が伝わり難い。
- ・高台径が大きく、安定性がある。
- ・底面が広く、麺がゆったり収まりスープに絡み易い。



有田焼窯元

環境配慮型

ーセラミック技術を用いた機能的な有田焼ー

珈琲・焼酎フィルター

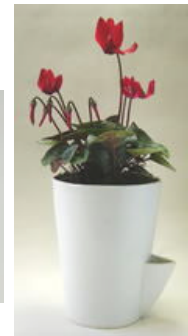
節水コマ

自動給水植木鉢

- ・セラミックの遠赤効果で水分子の凝集が小さくなることで水の鮮度が高まり、味がまろやかに。
- ・ペーパーレスで、半永久的に使用可能。

- ・錆が発生せず衛生的。
- ・節水により上下水処理時に発生するCO2を削減。

- ・多孔質セラミックの毛細管現象で自動給水し節水。



【意義】

① 有田焼は従来、窯元と商社の分業制であったが、新たに、「両者が協働して統一規格を開発、各窯元がオリジナルの絵付けを施し一つのブランドで販売する」という体制を確立した。

② 消費者、窯元、商社の視点から徹底したマーケットリサーチを行い、売れる商品の開発に取り組んだ。

③ セラミック技術を応用し、遠赤効果等を活かした機能的な有田焼を創作し、新たな展開を図っている。

【効果】

① シリーズ物の売上増加で有田焼の売上低下に一定の歯止めがかかった。

② 窯元と商社が協働して取り組むことで、消費者ニーズを踏まえた新たな商品開発、販路拡大につながっている。

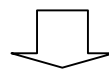
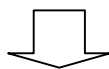
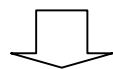
③ 技術力はあるが販売力が弱い零細企業のPRやビジネスマッチングを行い、販路拡大につながっている。

地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 1.地場産業 ③ >

伝統的な基幹産業である大川家具業界の取組み

大川地区の伝統的な基幹産業である家具関連業界に対し、地域金融機関が業界全体に継続してきめ細やかな金融支援と外部専門家と連携した独自の経営改善等の支援に取り組むもの

信用金庫



家具製造業者(数社)

『SAJICA』

- ・「さじかげんの心地良さ」と「世界的に満足してもらえる日本の創造的なモノ(Satisfied About Japan's Inventive Creations Abroad)」という2つの意味を表す。
- ・“和”の最適化”をキーワードに、現代都市生活を「和＝日本」の観点から見つめ直し、「さじかげんの工夫」で新たなモノの側面を引き出すデザインとして、デザイナーとのコラボレートにより“SAJICA”プロトタイプを製作。
- ・日本独自の知恵や自然観に基づいた機能とフォルムの再評価であり、モノとヒトの距離をもう一度近づける試み。



桐製家具製造業者

『羊毛桐材の組立ベット』

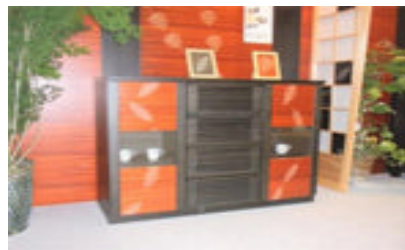
- ・総桐の板の中にサーモウール(羊毛)を詰め込んだ「羊毛桐材」をベッドの床板に使用。
- ・桐が持つ遠赤効果、断熱効果をさらに高め、結露防止と防カビ・防ダニの効果を生み出す。
- ・金属金具を一切使用していないので、金属アレルギーの人でも安心。
- ・桐は生育スピードが速く、資源として有用。



合板製造業者

『葉脈の天然木化粧合板』

- ・天然木化粧合板に葉脈を特殊技術で凹凸なく貼り付けた建材。
- ・凹凸ないので肌触りが良く、見た目の美しい仕上がりで商品の優位性が生まれる。
- ・国内外を問わずヒーリングやネスティング等の癒しの空間やデザイン重視の企業(美容室、エステ等)を中心にニーズがある。
- ・酸化チタンと光触媒を使った天然木化粧合板も製造しており、特許申請中。



【意義】

○ 日本有数の木工の町の大川地区は、その地域資源の家具等の製造技術を活かし、様々な製品を製作・開発し、地域の発展を図ってきたが、地元信用金庫はこれを永年支えてきた。

○ 今回、政府の「地域力連携拠点」事業の縮小に伴い、金庫独自の負担で「地域活性化のための地域貢献事業」を創設し、外部専門家、地元商工会議所及び商工会との連携により、地域事業者の経営相談、経営改善等に取り組んでいる。

【効果】

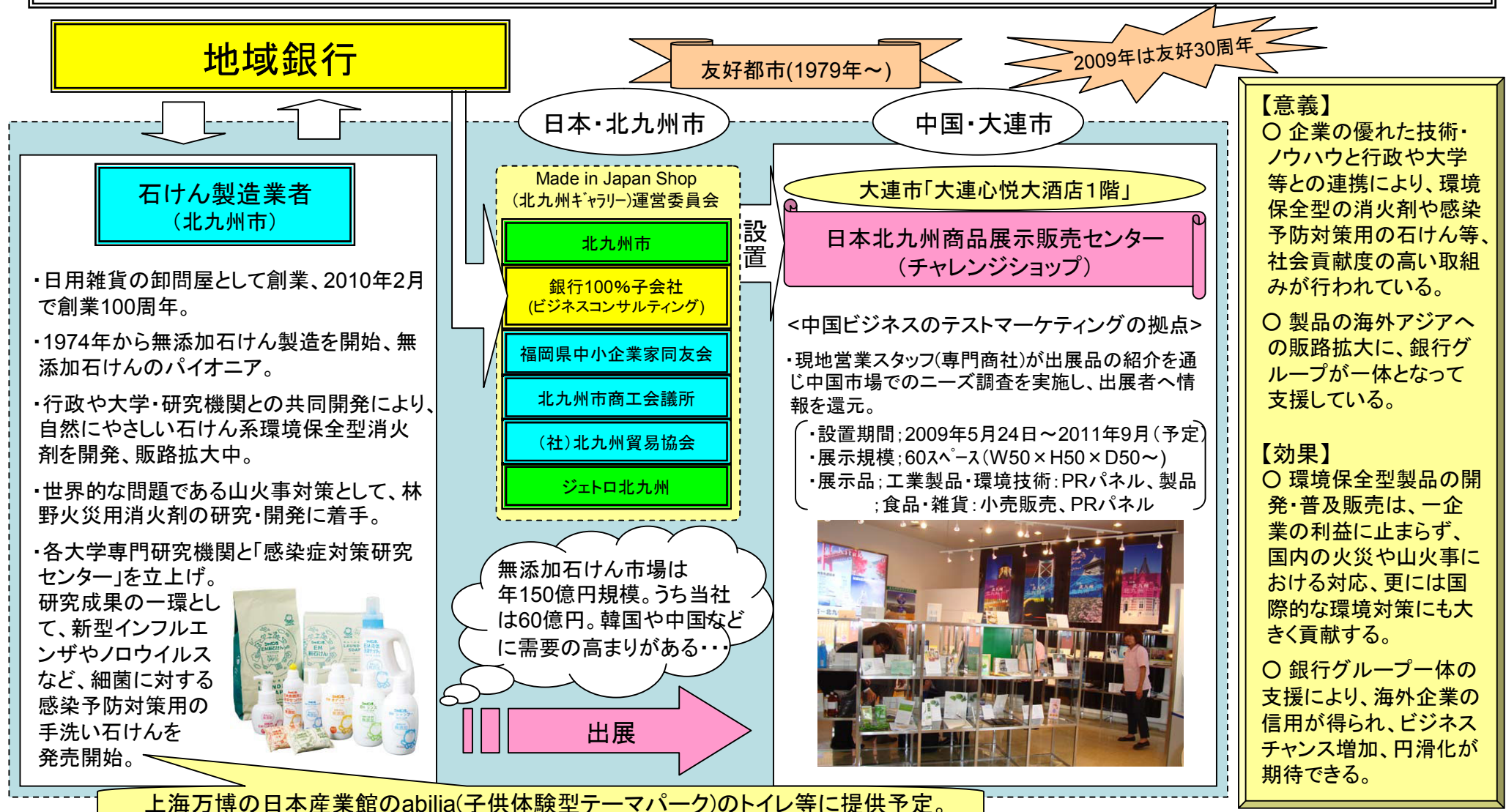
○ 地域の業界全体についての「悩み」「課題」等の解決を支援することにより、業界全体の安心感を醸成し、地域経済の活性化に寄与する。

○ 外部専門家等の支援等により、新たな商品デザインの展開や、海外への販路拡大につながる。

地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 2.アジアへの展開企業 >

無添加石けん系製品の開発及びアジアへの販路拡大

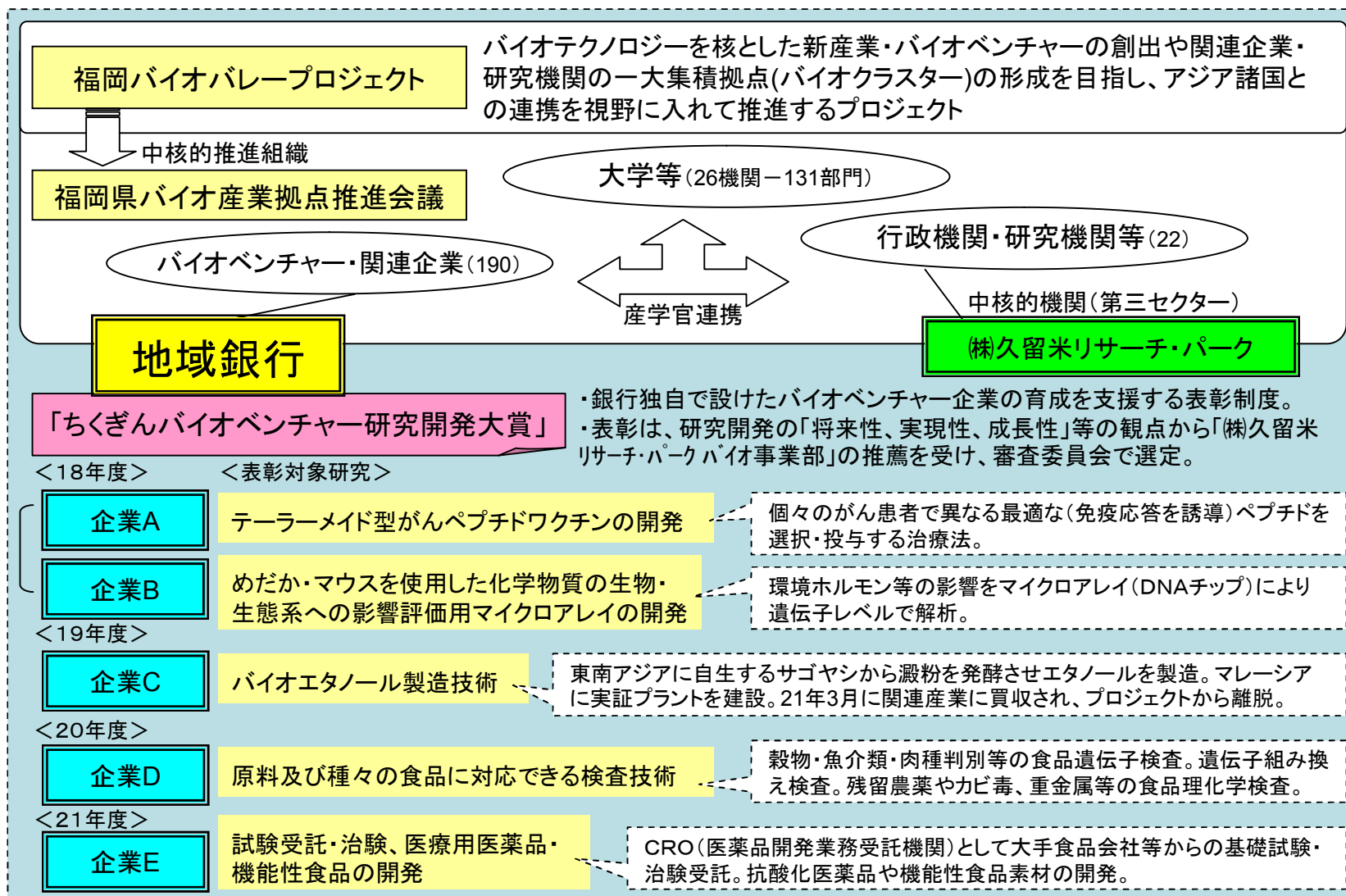
無添加石けんの技術・ノウハウを活かし環境保全型製品の開発に取組む企業について、地域金融機関が金融支援のほか、子会社の参画する海外販路開拓拠点を通じて、アジアへの販路拡大の支援に取組むもの



地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 3.医療・介護・健康関連産業 ① >

産学官連携によるバイオベンチャー企業の育成

福岡県と久留米市が中心となって進める産学官連携の『福岡バイオバレープロジェクト』の推進に関し、地域金融機関が参画するとともに、独自に表彰制度を設けるなど、バイオベンチャー企業の育成支援に取り組むもの



【意義】

- 久留米大学をはじめとする医療機関の集積地域である久留米地域を中心とした集積拠点を活用。
- 福岡県や久留米市が中心となって進める地域を挙げた産学官プロジェクトに対し、地域銀行が積極的な支援を行っている。

【効果】

- バイオ関連企業が久留米地域を中心に集積することで、地域の優位性や施設の利便性から、関連産業の誘致が促され、地域産業の発展につながる。
- 銀行の「研究開発大賞」の表彰・報道により、無名のベンチャー企業の発掘・PRにつながり、全国から企業が集まってくる。

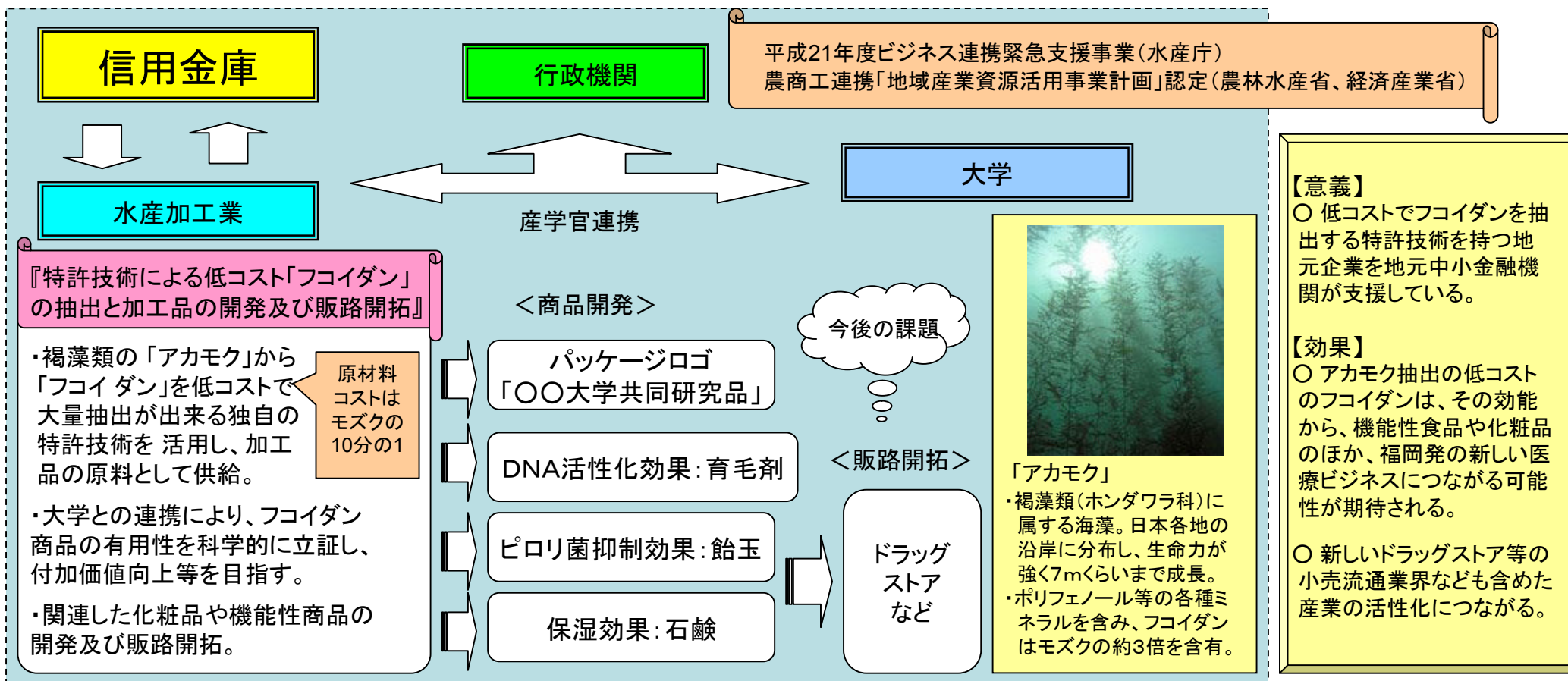
地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 3.医療・介護・健康関連産業 ② >

低コスト健康食品とその加工品の開発

低コスト「フコイダン」の抽出技術を活用したその加工品の開発等に大学や所管省庁と連携して取組むベンチャー企業に対し、地域金融機関が金融支援と販路開拓支援に取り組むもの

「フコイダン」とは

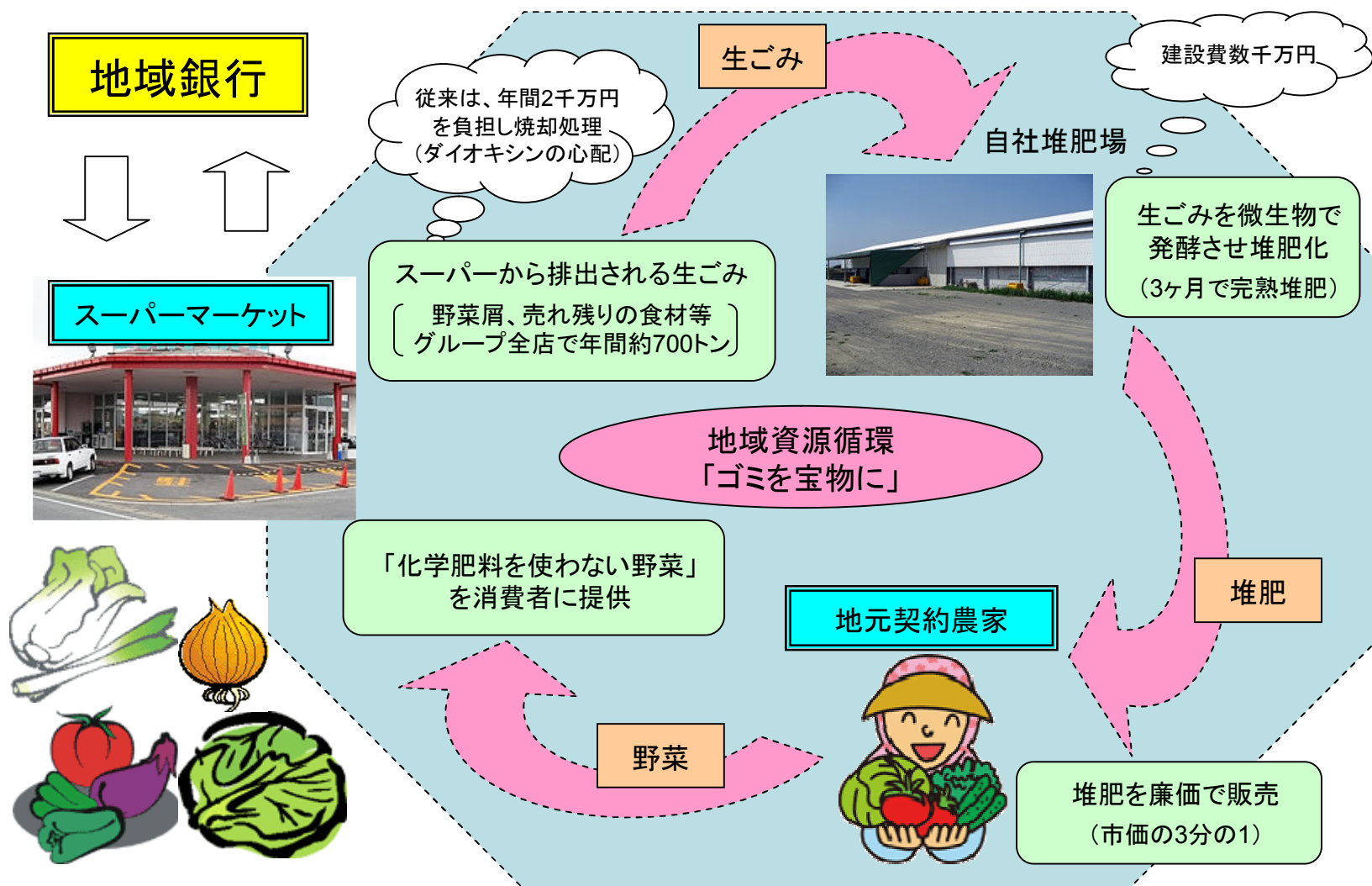
- ・コンブ、ワカメ、モズク等の褐藻類のヌルヌル成分に多く含まれる多糖体（フコース）、水溶性食物繊維の一種。1996年の日本癌学会で制癌作用が報告され健康食品として注目されるようになった。
- ・海藻にとっては、細菌の侵入や引き潮の際の乾燥から身を守る等の働きをしてくれるもの。研究により、保湿効果、抗酸化効果（アンチエイジング）、免疫力増進効果（がん細胞の自己消滅）があるとされ、自然治癒力をアップさせる「補完代替医療」としても期待されている。



地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 4.環境関連産業 >

スーパーマーケット排出の生ごみのリサイクル事業

自社スーパーマーケットから排出される生ごみのリサイクル事業(生ごみ→堆肥→野菜)に取り組む企業に対し、地域金融機関が金融支援及び仕入先紹介等の支援に取り組むもの。



【意義】

○ 生ゴミの焼却処理費を削減でき、CO2やダイオキシンの削減にも繋がり、環境対策に貢献できる。

○ 健康に良い「化学肥料を使わない野菜」を消費者に提供できる。

○ 地元農家は、スーパーの配慮で廉価な堆肥を利用できるだけでなく、適正価格でスーパーに買取ってもらえる。

【効果】

○ 消費者は、健康に良く美味しい野菜を購入することができる。

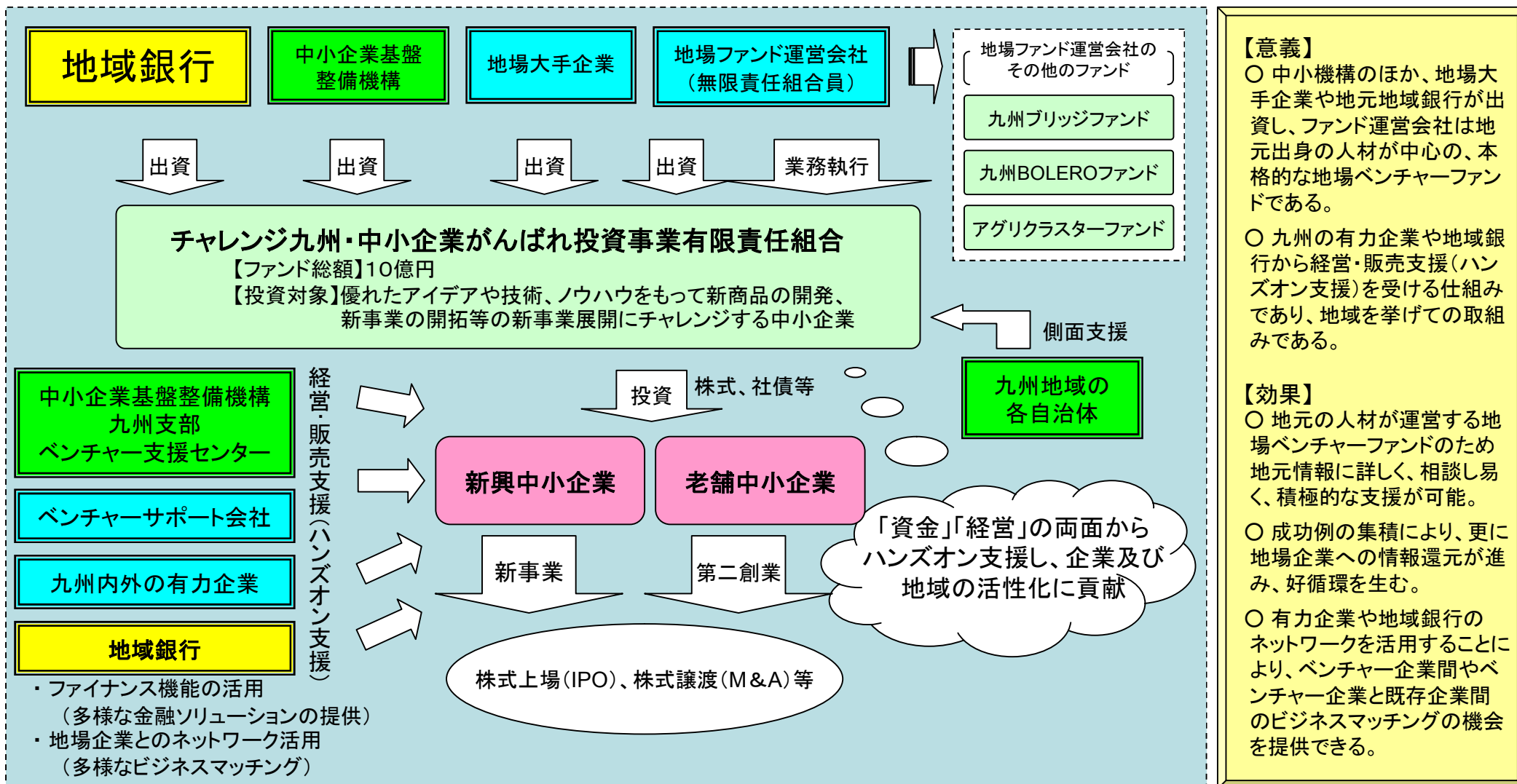
○ 地元農家が安定した収益を確保できることにより農家の育成が図られる。

○ スーパーは、健康に良い野菜を供給することにより、消費者から高い評価を得て、売上を更に増やす事ができる。

地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 5.地場ベンチャーファンドの活用① >

地場ベンチャーファンドによる新事業展開支援

地場大手企業が出資し地元出身の人材が運営するベンチャーファンドについて、地域金融機関がファンドへの出資やネットワークを活用した経営・販売支援を通じて、新事業展開の支援に取り組むもの



地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 5.地場ベンチャーファンドの活用② >

地場ベンチャーファンドによる新事業展開支援（事例）

チャレンジ九州・中小企業ががんばれ投資事業有限責任組合

新ブランドの発掘、新店舗オープン等、事業拡大に伴う資金需要

投資

株式、社債等

投資

老舗運送業者の新規事業展開を支援

事例① 革製品等の卸・小売業（新興中小企業 新事業展開）

『20年後に息子に譲るモノ』

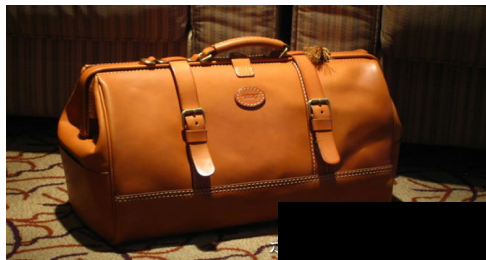
◆「職人技」をブランディング「売れる商品」へ

- ・ 老舗革製品メーカーの商品力（職人による手作りの国産品）を見出し、メーカーと協同して「売れる商品」へと成長させ、急成長。
- ・ ネット通販を主体に福岡から全国へ販売展開。

◆本物志向・オンリーワン志向といった消費者ニーズ

- ・ 時代に左右されない普遍性と品質を高めた「20年後に息子に譲るモノ」が商品コンセプト。
- ・ 色の変更やポケットの追加など、自分仕様のオプションが可能。

◆首都圏やアジアへの 出店を視野に



事例② 運送・倉庫業（老舗中小企業 第二創業）

『こだわりの手作り無添加ペットフード事業』

◆本業以外への事業展開

- ・ 新規事業として、無添加ペットフード事業会社を子会社化。
- ・ ペットフード拡販のため、日本初のガラス張りオープンキッチンの新設、積極的な事業展開。

◆こだわりの国産・無添加ペットフード — 地元農作物の活用 —

- ・ 完全無添加・天然食材を重視し、地元農家の野菜等を活用。
- ・ 産地公開し、人向けと同じ材料を使用することにより、安全で信頼できるペットフードを提供。
- ・ 「『餌』ではなく『食事』。愛する家族のためのスローフード」がキーワード。

◆首都圏への販路拡大

- ・ 大手スーパー等での販売で全国展開。
- ・ 動物病院やペットショップ等についても、今後首都圏での営業を強化。



地域産業の発展と地域金融機関の取組み < 6.取組みの類型化と今後の課題 >

1. 取組みの類型化

(1) 地域資源活用型

「地域に元々存在していた地域共有資源(例えば、漁業、伝統産業等)について、時代のニーズの変化に応じて、新たな展開を図るもの」 ⇒ 1-①「養殖クロマグロ」、1-②③「有田焼」

< 金融機関の支援 >

- 業界内の調整
 - 新しい販路の拡大等
- (注)単なる金融支援を除く。以下同じ

(2) 地場産業応援型

「地域に特有な地場産業全体を積極的かつ全面的に応援するもの」 ⇒ 1-③「大川家具」

- 地場産業全体に対する支援制度の創設
- 地場産業全体のPR

(3) 新技術(製品)普及型

「地域の企業の新たな技術や製品について、その国内外に対する普及を支援することにより、新たな展開を図るもの」 ⇒ 1-②④「有田焼(セラミック)」、2「無添加石けん」、3-②「健康食品(フコイダン)」、4「リサイクル」

- 販路拡大の支援
- 海外へのPR支援

(4) 地域版産学官連携プロジェクト型

「地域における産学官連携プロジェクトの中で、県・市及び地域の大学等と連携を図りつつ、積極的な役割を果たすもの」 ⇒ 1-①「養殖クロマグロ」、3-①「バイオベンチャー」

- 自治体・大学との調整、連携
- 独自の表彰制度の創設

(5) 地場ファンド組成型

「地域における地場ファンド等を組成し、地域の人材を活用し地域の企業の協力を得て、ハンズオンの支援を積極的に行うもの」 ⇒ 5「地場ベンチャーファンド」

- ファンド組成
- ファンドへの出資
- ファンドへの人材支援

2. 今後の課題

- (1) 全体として、単なる金融支援や販路拡大に止まっている傾向。個別の問題解決等の企業のニーズに必ずしも十分に対応できていない。
- (2) 地域資源活用型の支援・・・企業は基本的に個々の利益を追求するので、地域全体の発展のためには、金融機関の調整・仲介が重要。
- (3) 地場産業応援型の支援・・・業種集中リスクを管理しながら積極的な支援を行う必要があり、金融機関の財務面からは悩ましい問題。
- (4) 地域版産学官連携型の支援・・・型だけ作る傾向にあり、成果がついてこない。金融機関の存在感を示す独自の真摯な取組みが必要。
- (5) 地場ファンド組成型の支援・・・金融機関自ら高いリスクを取ることは難しく、ファンドによる地域の人材と有力企業の十分な活用が課題。

(注) 以上は、上記の代表例以外も含めた全体としての課題。